

令和元年度（平成31年度）「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 平成31年4月16日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査

○調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～6学年> 国語、社会、算数、理科

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立立会小学校

理科

(1) 定着状況についての概要

定着度調査の結果から、4年生と5年生は、ほぼ全国平均と同等の成績で概ね、良好と言える。6年生は、全国平均比で117%と大きく上回り。大変良好となっている。

「植物の育ち方」や「豆電球が光る仕組み」「顕微鏡の使い方」など、説明を伴う問題の正答率が低い部分は、経験が足りていないため、実感が伴った学習となっていないことが考えられる。

逆に名称や事象などの知識を問う問題では、正答率が高い。

【経年変化の分析】

同一学年による経年比較を見ると、4,5年生は下降、6年生は向上している。

同一集団による経年比較を見ると、5年生は下降、6年生は向上している。

(2) 具体的な課題

4年生

- ・正しい導線のつなぎ方や豆電球が点灯するための理解が不十分である。
- ・植物の育て方の仕方についての理解が不十分である。
- ・昆虫の体のつくりについての理解が不十分である。

5年生

- ・月の動きや星の観察方法などの知識・理解が不十分である。
- ・水が氷になるときの状態変化の過程や理由を説明する力が不十分である。
- ・蒸発や電流についての理解が不十分である。

6年生

- ・顕微鏡を使う手順についての理解が不十分である。
- ・実験の結果を既習事項や生活体験と結び付けて推測する力が不十分である。

(3) 課題の原因として考えられること

- ・既習単元が終わると同じ内容を学ぶ機会はほとんどなくなり、知識と理解が定着しづらい。
- ・植物に合った育て方を知り、なぜそのような育て方をするのかを考える体験が不足している。
- ・図書資料や動画を活用し、課題をもって調べたり、発表したりする活動が不足している。
- ・生活や既習事項を通して推測し、実験方法を考えて問題を解決する学習体験が不足している。

(4) 課題解決のための方策

- ①授業の最後に押さえておかなければいけない事項について再度確認したり、復習プリントを配布したりして、知識と理解の定着を図る。
- ②実験や観察など実際に体験する活動を取り入れて、体験に基づいた理解となるようにする。
- ③図書資料やICTを活用して、課題に気付かせたり、発表させたりする。
- ④実験をする前に必ず予想を立て、実験方法を考え、実験後に考察をする。課題解決学習に取り組む。

(5) 次年度の数値目標

全国平均比で、110%以上を目指す。

国語科

(1) 定着状況についての概要

- ①どの学年も、領域別・観点別のほとんどの項目で、品川区や全国の平均正答率を上回っている。全体的に国語科としての学力はついていると言える。
- ②「漢字を書くこと」について、どの学年も品川区や全国の平均正答率を上回っているが、4年（幸福）と6年（預ける）では60%台と正答率が低い問題もあった。
- ③「話すこと・聞くこと」について、どの学年も品川区や全国の平均正答率を上回っている。強いて言えば、3年生の話題に沿った質問をすることが目標値と同等の正答率であった。
- ④「書くこと」については、どの学年も品川区や全国の平均正答率を上回っている。ただし、2年生の手紙の返事を書く問題の簡単な構成を考えることについては、目標値を下回った。
- ⑤「言葉の学習」については、どの学年も品川区や全国の平均正答率を上回っている。ただし、4年生と6年生では以下の問題では、目標値を下回った。
第4学年 ローマ字…目標値55%に対して51.7%
国語辞典の使い方…目標値50%に対して47.1%
第6学年 同音同訓漢字の使い分け…目標値30%に対して26.3%
- ⑥「読むこと」については、どの学年も全国の平均正答率を上回っている。しかし、4年生の平均正答率は品川区の平均正答率よりも下回っている。

【経年変化の分析】

同一学年による経年比較を見ると、2,3年生はやや向上、4,5年生はやや下降、6年生は向上している。
同一集団による経年比較を見ると、3年生は向上、4,5年はやや下降、6年生は横ばいとなっている。

(2) 具体的な課題

- ①漢字の読み・書きの定着が不十分である。
- ②聞きたいことを基にインタビューの質問を考えることが不十分である。
- ③作文の問題で、文字数や段落構成の指示通りに、話題の中心や理由を明確に書くことが難しい。
- ④修飾語の使い方の理解が不十分である。

(3) 課題の原因として考えられること

- ①文章の中で漢字を用いる機会や反復練習時間が足りない。
- ②聞き取ったことを基にして、自分の考えや意見を相手に伝えるように話す経験が不足している。
- ③書くことについては、テーマや構成の条件に沿った文章を書く経験が少なかった。
- ④言語理解については、国語の授業で学んだことを生活の中で生かすことができていない。また、国語辞典を使う経験が不足している。

(4) 課題解決のための方策

- ①立会の時間、家庭学習を活用した漢字の反復練習をする。その際、熟語だけでなく、文の中で漢字を使用する学習も意図的に取り入れる。
- ②国語の「話すこと・聞くこと」の単元において、説明したり質問したりする活動の充実を図る。
- ③100ます作文を通して、テーマに沿って書く経験を増やす。また、文章構造についても丁寧に指導する。
- ④立会の時間を活用した言語理解の指導の充実（ワークやプリント）さらに、辞書を用いる学習を増やす。

(5) 次年度の数値目標

社会科

(1) 定着状況についての概要

- ①各学年の観点別正答率、領域別正答率、及び基礎・活用の全てで、全国の平均点、品川区の平均点および目標値を上回っている。ここから、本校の社会の定着度は概ね良好であるといえる。
- ②正答率を全国比で言うと、4年生が111%、5年生が113%、6年生が114%と、全国平均を大きく上回っている。
- ③各問題を詳しくみると、問題によって正答率に差がある。
 - ・4年生→・地図記号の理解をもとに地図を読み取る問題や販売の仕事に関する資料の読み取りが目標値より低かった。
 - ・5年生→「安全な暮らし」では、資料をもとに考える問題が44%と、目標値を大きく下回った。「地域の発展につくした人々」では、表や資料を読み取る問題で校内平均が低かった。
 - ・6年生→「世界の中の国土」では、全国平均を超えているが、正答率が低かった。「日本の水産業」では、正答率が全国平均を下回った。

【経年変化の分析】

同一学年による経年比較を見ると、4年生は下降、5年生は横ばい、6年生は向上している。
同一集団による経年比較を見ると、5年生はやや下降、6年生は向上している。

(2) 具体的な課題

- ①地図やグラフ等の資料を読み取る力が不足している。
- ②学習内容について、自分の考えを表現する力が不足している。
- ③地図記号や地理についての理解が定着していない。

(3) 課題の原因として考えられること

- ①資料を読み取って考察する学習が不足していると思われる。
- ②資料から読み取れたことや学習したことから意見を交流させたり、自分の意見をまとめたりする機会が十分ではなかった。
- ③地図や地図帳に触れる機会が十分とは言えない。

(4) 課題解決のための方策

- ①資料が何を示しているかを明らかにして、丁寧に読み取る指導を行う。
- ②学習における様々な場面で、話し合う場面を増やす。また、振り返りの際、学習内容や自分の考えが分かるようにワークシートやノートの書き方を工夫する。
- ③地図記号などを掲示したり、近隣の地図を作成したりして、地図記号に日常的に触れる環境を作る。

(5) 次年度の数値目標

全国平均比で110以上を目指す。

算数科

(1) 定着状況についての概要

- ① 2～6年生の観点別正答率、領域別正答率、及び基礎・活用の全てで、全国の平均点、品川区の平均点および目標値を上回っている。ここから、本校の算数の定着度は良好であると言える。
- ② 正答率を全国比で言うと、2年生が106%、3年生が106%、4年生が106%、5年生が109%、6年生が121%と、全国平均を大きく上回っている。
- ③ 正答率を比べると前年より伸びているのが2年、4年、6年で3年、5年は少し下がっていた。
- ④ 正答率がやや低い問題
 - 2年生 かたち、ひき算（繰り下がり）
 - 3年生 1000までの数・分数、はこの形、時刻と時間
 - 4年生 □を使った式、棒グラフと表、長さ・重さ
 - 5年生 いろいろな形、小数（単位換算）、面積、折れ線グラフと表
 - 6年生 小数の計算（あまりあり）、分数と小数（大小比較）、百分率とグラフ

【経年変化の分析】

同一学年による経年比較を見ると、2年生は横ばい、3～5年生はやや下降、6年生は向上している。
同一集団による経年比較を見ると、3年生はやや下降、4、5年生は横ばい、6年生は向上している。

(2) 具体的な課題

- ① 数の構造の理解が不十分な児童がいる。
- ② 図形に関する用語と台形や平行四辺形などの図形の特徴の理解、立体の構造の理解が不十分である。
- ③ 「小数」と「分数」の理解と「整数」「小数」「分数」が混在した計算力が不十分である。

(3) 課題の原因として考えられること

- ① 低学年の数の生成や九九のつまずきにより、数の概念が身に付いていない。
- ② 図形の特徴を理解し、図形の応用問題などで、既習事項を生かして説明する経験が足りていない。
- ③ 整数、小数、分数の考え方を図に表し、様々な方法で説明する経験が足りていない。

(4) 課題解決のための方策

- ① 毎日の宿題と立会の時間（モジュール）の算数科学習を継続し、計算能力向上の取組を持続する。
- ② 基礎的な問題は正答率が高いのに比べて、表現力や思考・判断力で区を下回っている学年があるので、教科書の応用問題に取り組み、幅広い考え方をもちこたせる。
- ③ 整数、小数、分数の考え方や理由などを図などに表して説明することに取り組む。

(5) 次年度の数値目標

全国平均比で、110%以上を目指す。